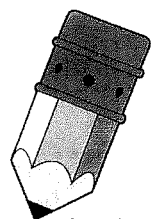


## 謝 辞

本年 (2001年12月13日~2002年12月5日), 投稿論文の査読を次の方々をお願いいたしました。ここに名前を記し, 厚く御礼申し上げます。(敬称略, +印は非会員) (地質学雑誌編集委員会)

相川信之+・秋葉文雄・吾妻 崇+・荒井章司・粟田泰夫・安藤寿男・池田 進+・池田 剛・石賀裕明・石垣 忍・石崎国熙・伊藤久敏・井上英二・井内美郎・入月俊明・入野智久・岩井雅夫・氏家 治・永広昌之・大木公彦・大谷具幸・大槻憲四郎・大平寛人・小笠原憲四郎・岡田尚武・岡村 聡・小川勇二郎・奥野 充・海保邦夫・加藤碩一・狩野彰宏・鹿野和彦・狩野謙一・釜井俊孝・川村信人・北里 洋・木村純一・沓掛俊夫・梶座圭太郎・公文富士夫・栗本史雄・黒川勝巳・小泉 格・香西武・小坂和夫・小嶋 智・小竹信宏・後藤秀昭+・後藤芳彦・小林健太・小松原 琢・斉木健一・斉藤文紀・酒井治孝・榊原正幸・坂口有人・嵯峨山 積・酒寄敦史・佐藤時幸・佐野弘好・三瓶良和・志岐常正・嶋田智恵子・志村俊昭・周藤賢治・鈴木正男・鈴木康弘+・角井朝昭・諏訪靖二・瀬戸浩二・高木哲一・高木秀雄・高須 晃・高橋 修・高橋雅紀・高畑伸一+・田切美智雄・竹内圭史・竹下 徹・竹谷陽二郎・竹村厚司・田崎和江・田沢純一・多田隆治・田中 均・田中裕一郎・谷村好洋・東田和弘・塚本 斉・土屋範芳・寺岡易司・利光誠一・長尾誠也+・長岡信治・中川康一・中野 司・中野 俊・七山 太・奈良正和・新妻信明・西村祐二郎・根本直樹・野村正弘・幡谷竜太・早川由紀夫・早坂康隆・速水 格・東野外志男・久田健一郎・平井明夫・平島崇男・平山 廉・廣瀬 亘・福地龍郎・福間浩司+・藤縄明彦・古谷 裕・豊 遙秋+・星 博幸・堀 常東・本間岳史・前川寛和・前田仁一郎・前田晴良・間嶋隆一・松浦浩久・松岡数充・松川正樹・松田伸也・的場保望・三浦大助・水野清秀・三宅康幸・宮田隆夫・宮田雄一郎・宮地良典・宮地直道・本山 功・八尾 昭・八木下晃司・八幡正弘・山縣 毅・柳沢幸夫・山崎俊嗣・山路 敦・山田泰弘・山中康裕+・山野井 徹・山元孝広・山本啓司・山本鋼志・吉川周作・吉倉紳一・吉田武義・吉田英一・和田秀樹・渡辺真人・渡部芳夫・Simon Wollis



## 編集委員会より

先月号でも狩野副委員長から少しお話ししましたとおり, 評議員会の知的財産権等検討委員会の指摘を受けて, 地質学雑誌などの学会出版物全般に対する著作権管理の見直しが行われています。一般的に, 学会誌に掲載された論文などは, いわゆる「著作権」が学会に移ることにより, 著者でも自由に再利用できなくなることはご承知の通りですが, その手続きを法的根拠となり得る形で行うことにするのが, 今回の諸規定等の整備内容です。これらの内容については, 今月号のニュース誌に, 会長からのお願いの文章として詳細に書かれていますので, 詳しくはそちらをお読み下さい。ここでは, 今回の作業で明らかになった, 編集出版上の問題点などをご紹介します。

著作権は, 正確には著作財産権と著作人格権からなります。著作財産権とは, 著作物を種々利用したり公表したり, 出版したり売ったりする権利で, これについて, 学会は原著者から委譲を受けます。一方, 著作人格権は著者以外には移転できない権利で, 公表権 (公表するかしないかを定める権利), 氏名表示権 (公表する際に指名を表示するかどうかを決める権利), 同一性保持権 (自分の著作物の内容を無断で改変され

ない権利) からなります。この権利は, 著作財産権が学会に委譲された後も, 著者が保持し続けます。

ひとたび受理出版された論文の著作財産権が学会に委譲されても, 第3者の研究者がこれらの公表論文を引用し, 自分の論文に「誰々, 2001の第2図に加筆」などといって若干手を加えたり簡略化したりした図を加えることが多々あります。この際には, 事前にこの「加筆」や改変などを「原著者」から承諾を受けていないと, 著作権法違反となってしまいます。逆に, 正規の「引用」として, 原文を改編することなく, 原著者の氏名表示を正確に行っている場合には, 著作権法上は, 一切の手続きは不要です。

これは法律的にそうなのだということで, 我々学術論文の公表についての常識とは, 若干ずれている感覚があります。逆に, 我々のこれまでの認識は, 法的にはずれてきた模様だということかもしれません。今後の編集作業では, 転載許可は慣例として続けることとしつつ, 上記の加筆改変は, 転載よりも厳密に, 「原著者」の許可を取る必要があることとします。つまり, 原図を引用した上でご自身のデータを加筆するのであれば, 許可を得た無修正の引用原図にはっきり分かる形で自身のデータを加えるという形が, もっとも問題の少ないものになります。ご自身の責任が取れる著作物ではない状態で, 第3者のデータを「加筆・修正」する場合には, どれだけ加筆されたのか, どのデータが削除されたのか分からない形で行うと, 法律上は不法行為となるそうです。今回の「投稿原稿の内容保証」

には、これらの問題点も、投稿段階でクリアしていた  
だいていることを前提とする意図があります。

現在の著作権に関わる国内の法整備は、我々自然科学  
の研究界にはそぐわない、いわば未整備な状況で  
す。実際の法廷闘争になった場合には、残念ながら根  
拠とするものが無い状態で判決が出ます。代表的な学  
術団体が学術論文の著作権問題等についてはっきりと  
した倫理綱領などを国内に知らしめていて、実質的  
にはそれがデファクトのルールになっている場合には、  
法廷でも参照されることになりましょう。今後も知的  
財産権等検討委員会や倫理規定策定委員会などの作業  
を待ちつつ、編集委員会としても、我々の常識と良識  
が反映され、なおかつ著作者の権利と研究者の利便性  
が確保されるルール作りを目指したいと思っていま  
す。

なお、12月の評議員会に提出する編集関連の各種規  
約・規定は、かなり多岐に渡ります。このなかで、地  
質学雑誌の新たな出版形態として、日本地質学雑誌  
オープンファイルというものを新たに設定させていた  
だく予定です。これは、受理予定論文から、生データ  
部分を（著者の希望に応じて）オープンファイルとし  
てホームページに掲載するものです。印刷上限をオー  
バーする場合だけでなく、誌面のスリム化にも役立ち  
ますので、膨大な生データをご用意されている場合  
には、記憶しておいて下さい。投稿段階からオープ  
ンファイルとしてご用意頂くことはできませんが、論文  
自体の完成段階で、ご要望頂けます。

今月の編集状況は以下の通りです。(12月9日現在)  
本年度投稿論文数 87 編 論説 69 編 (和文 66/ 欧文 6),  
短報 11 編 (和文 10 欧文 1), 総説 1 編 (和文 1), ノー  
ト 3 編 (和文 3) 口絵 17 編 (和文 13/ 欧文 4)  
昨年比 +3  
査読中 48 編.  
現在受理済み 9 編

編集委員長 渡部芳夫

#### ○次号予告 (109 巻 1 月号)

##### 論 説

古澤 明: 洞爺テフラ降下以降の岩手火山のテフラの  
識別

小松原純子・廣木義久・松本 良: 堆積相と総有機炭  
素・総硫黄含有量からみた下部中新統野島層群の  
堆積環境

土屋 健・長谷川 卓・リサ M. プラット: 北海道蝦  
夷層群における炭素同位体比曲線とイノセラムス  
生層序の対応関係

宮田雄一郎・高下昌也: 鳴り砂と粒子間摩擦

須藤 斎・高橋雅紀・柳沢幸夫: 埼玉県比企丘陵の中  
新統土塩層 (明戸セクション) の珪藻化石層序

吉川周作・渡辺秀男・井上 淳: 新潟・長野県に広域  
に分布する後期更新世の炭層準の発見

##### 短 報

斎藤 眞・利光誠一: 九州中部に分布する下部白亜系  
砥用層の基盤から産出したベルム紀放散虫化石

##### 口 絵

石渡 明: アフリカ, マリ共和国産のカリウムに富む  
ソレライト質ドレライト

### © THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

Igeta Bldg., 8-15, Iwamoto-cho 2 chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0032, Japan

平成 14 年 12 月 10 日印刷 平成 14 年 12 月 15 日発行 定価 1,700 円

発行者 日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 Fax. 03-5823-1156 (振替口座 00140-8-28067)

印刷 東京都荒川区西尾久 7 丁目 12-16 創文印刷工業株式会社

広告取扱 株式会社 廣業社

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-2-9 電話 03-3571-0997 (代)